



志中の風

『自主』

『友愛』

『奉仕』

夢をもつことで強い意志が生まれる

2月が終わり、いよいよ3月に入り、卒業や進級の季節が近づいてきました。

皆さんは、これから新しい環境に進んでいくこととなりますが、その時の自分の夢をもっていることがどれだけ大事かということについて考えてみたいと思います。

まず、「夢」という一つの目標がありますから、夢をもつことで自分の成長を促すことができます。また、夢があることで、困難を乗り越える力が湧いてきます。さらに、夢が他の人との繋がりを生むこともあります。

このように、夢をもつことには大きな意味がありますが、人は時にして夢を諦めてしまうことがあります。

「自分には夢を実現する力がない」と、自分で自分の可能性に蓋をしてしまうのです。

しかし、夢をもつことで強い意志が生まれるのです。強い意志が生まれれば努力を続けることもでき、周りの人の協力も得られるでしょう。ですから、皆さんには夢を諦めないでほしいのです。

これは、川島成道さんというヴァイオリニストの方の話です。川島さんは小さい時に飲んだ薬の影響で難病を患い、その後の後遺症で視力をほとんど失ってしましますが、10歳の時からヴァイオリンを習い始めます。かなり遅いスタートであり、しかも楽譜が見えないし、病気の影響で指先も弱く、弦をうまく押さえられなかったそうです。

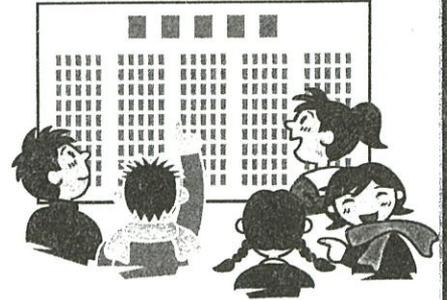
しかし、両親が模造紙に大きく楽譜を書き写したものを壁に貼り、厳しい練習を黙々とこなして、ついに一流の演奏家になりました。

この話から分かることは、困難を抱えていても、あきらめずに必死に取り組めば、夢を実現するチャンスがあるということです。

これから皆さんは、新しい環境での生活が始まります。そこでぜひ自分の夢を見つけて、その夢に向かって

一歩一歩進んでいてほしいと思います。

夢をもつことで、皆さんの未来はきっと素晴らしいものになると思います。



次頁には、2月14日(土)に教育講演会をしていただいた岩元みささん(通称PONちゃん)の記事も載せてあります。対面での講話は叶いませんでしたが、皆さんの感想を読むと「あきらめない気落ちが大切だ」とか「チャレンジすることが大切だ」「失敗しても立ち上がればいいんだ」など書いてありました。大変嬉しかったです。次はこれを実践していくことがよりよい自分をつくり、自分自身に誇りをもてるようになると思います。

一を聞いて十動く

「主体的に行動する」ということについて考えてみたいと思います。「主体的」という言葉は皆さんも聞いたことがあると思います。

では、主体的に行動するとはどのようなことを言うのでしょうか。主体的に行動するとは、自分の意思と責任に基づいて、積極的且つ自発的に行動することを意味します。具体的にいうと

- ・自分で考え、自分で判断し、自分で決めて行動する。
- ・受動的でなく能動的に行動する。
- ・その行動や行動の結果に対して責任をもつことです。

学生時代は、どちらかというと受け身的な状況が多いですが、成長するにしたがって、そのままでは、社会のなかでは成果は出ません。自分から気を利かせ、空気を読み、何が必要なのかつぶさに感じ取り、承認を得た上で行動に移すことが求められます。是非ともそのような習慣を早いうちに身に付けてほしいと思います。

2年志講話【1/28(水)】

市の芸術鑑賞事業の協力で、宮井紀行さんがトークとライブ演奏を披露しました。鹿児島を拠点に活躍されている方なため、聞きなじみのある曲も多く、生徒も盛り上がっていました。トークでは、「大きすぎるぐらいの夢をもってほしい」「遠回りでもコツコツと積み重ねることが夢を現実にする道」など、2年生に向けて生き方の示唆もいただきました。



第5回学校運営協議会

2月4日(水)午後、今年度最後の会を開催しました。授業参観では、3年生の落ち着いた授業の様子を御覧になり、安心されている言葉も聞かれました。また協議では、校則の見直しやいじめに対する意識の向上、生き方教育に関する助言などをいただきました。1年間を通して協議会委員の皆様には、大変御世話になりました。御礼申し上げます。



学習指導サポーター事業

2月16日から4日間、3名の鹿児島大学の学生が、志布志市の学習指導サポーター事業の一貫で来てくださいました。将来教師を目指す学生が、志布志中の生徒学習支援を通して現場の雰囲気を感じたり、将来に向けて必要とされる資質の向上を図ったりする目的で実施されました。学生は、生徒の人懐っこい素直な様子に安心したようです。



ワクワク生きよう。人生は冒険だ!

2月14日(土)3校時、「走る冒険家」(通称PONちゃん)こと岩元みささんにお越しいただき、講演をしていただきました。

各国で200km以上を走りきる過酷なマラソンに何度も挑戦し完走。令和6年南極大陸のマラソン、去年は北海道から鹿児島までの約2700kmを108日間掛けて走破。そんな経験を通して、「夢を持つこと」「挑戦すること」など生きるうえで大切なことを話されました。



「Your strong! (あなたは強い)・・・スティックがなく他の誰よりも多く転んだ。それでも起き上がり走り出す。何度転んでも起き上がり走る姿を見た海外の方から言われた言葉。転ぶことは悪いことではない、立ち上がることが強さなんだ。

一人だから怖い・・・砂漠の夜は真っ暗闇。そんな中を一人で走る。目をつむって走っているような感覚。物音がするだけでとにかく怖かった。平衡感覚を失うこともあった。彼女は高校中退の経歴がある。そのときも一人ぼっちだった。だから怖かった。だれか一人でも寄り添ってくれたら、それだけで心強い。周りにそんな人がいたら、是非寄り添ってあげてほしい。

最高の景色は「人間の輪」・・・これまで行く先々で素敵自然の景色を眺めてきた。それでも、過酷なレースのゴールで見た景色は忘れられない。先にゴールした選手やスタッフが円陣を組み、最後尾である私を迎えてくれた光景が「最高の景色だった」。

恩送り・・・(日本縦断中の福島での出来事を通して)恩は返すのも大事だが、直接返せないときもある。そんな時は申し訳なく思うのではなく、受けた恩を誰か別な他の人に「やさしさ」を届けてあげればいい。それが「恩送り」。

3月の主な行事

4日(水) 【3年】公立高校入試 【1年】 クラスマッチ
5日(木) 【3年】公立高校入試 【2年】 クラスマッチ
7日(土) 志の言の葉スピーチコンテスト(文化会館)
9日(月) 【3年】 クラスマッチ

10日(火) 【3年】卒業式予行 【1・2年】卒業式準備
11日(水) 第79回卒業式
12日(木) 公立高校合格者発表
20日(金) 【祝】春分の日
25日(水) 修了式 離任式



雲外蒼天 (編集後記)

冬季五輪が閉会。日本の選手活躍も連日報道され、過去最高のメダル獲得だ。中には悔し涙を流した選手もいただろう。インタビューでは、メダルを獲得した選手もそうでない選手も、一様に支えてくれた方々への感謝の言葉を口にしていく。また、十代の選手も多いが、インタビューに対しても堂々と、そして丁寧な受け答えをしていることが印象的だ。きっと、これまでの過程の中で、技術的にも、精神的にも成長した証だろう。話は変わるが、過日邦画「奇跡のバツクホーム」を見た。故横田慎太郎さんの引退試合での送球は、「野球の神様が最後に用意した奇跡」と称された。スポーツの神様がいるとしたら...。「神様」視点で考えよう。どんな選手を応援したくなるかだろうか。冬季五輪の選手も、周囲への感謝、ひたむきに努力する姿、丁寧な受け答え、人柄にその答えがあるように思う。〇〇の神様に応援してもらえ行動をしているか、自問自答していきたい。(教頭)